



武蔵野

学校だより NO.9
令和7年 1月号
昭島市立武蔵野小学校
校長 大河原 博



武蔵野小 HP

◆◆ 新年明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願いいたします。◆◆



新しい年を迎え、武蔵野小も子どもたちの元気な声とともに新学期が始まりました。皆様は新年をどのように迎えられたのでしょうか。早いもので『令和』になってすでに7年目。4月には最後の平成生まれ世代の子どもたちが入学してきます。そして昭和に換算すると今年は『昭和100年』です。昭和に生まれ、子供時代と青春時代のほぼ全てを昭和で過ごしてきた身には、100年という響きは、衝撃的なほど時の経過を思い知らさせるものです。今年は、世間でも昭和100年を記念した様々なイベントやメディアの特集が組まれることになるかと思いますが。私自身も子どもの頃のお正月をふり返ってみました。

私の記憶の中でのお正月（冬休み）は、いつも青い空が広がる晴れのイメージです。ゲイラカイトと呼ばれるギョロリとした目玉の西洋風の出現で、空の高さを改めて知った昭和の小学生時代です。私の実家は、近くに駅はあるものの、八王子の中でも開発が遅かった地域でした。山で枯葉に埋もれたり冬の田んぼで遊んだりしながら過ごしたものです。特に好きだったのがススキ野原で秘密基地を作って遊ぶことでした。いもしない敵を想定しながら作戦を立て、秘密の通路や要塞を広げていきました。家からミカンやお菓子を持ち寄り食べるのも格別でした。宅地開発でその遊びができなくなったときのショックは、今でも鮮明に覚えています。



また、元旦を迎えると町の空気が変わるような気がしました。もらったお年玉でこれから手に入れるアイテムを考えるだけでも心が弾みます。一刻も早く買いに行きたいのですが、残念ながら当時は正月から開いているお店など、まずありませんでした。「早くこいこいお正月」「早く終われよ三が日」とよく歌っていたものです。普段はほとんど手にすることのない紙幣を握りしめ、いざ向かうのは模型店です。その時のブームにより求めるものは変わりましたが、戦艦大和やスーパーカー、ガンダムのプラモデル、あるいはモデルガンなど、サンタさんからはもらうことのできなかった夢の品々を手にした喜びは至高のものでした。それらは、その後の松の内の遊びを豊かに彩るものでもありました。そしてふと、「今年はどうな年になるのだろう」と期待と不安が入り混じる妙な気分になる・・・・・・これが私の昭和50年代のお正月です。



新しくめぐり来れる年のむた
わが若き友よひとしく立たな
斎藤 茂吉

昭和100年、現在の子どもたちはどのように過ごしているのでしょうか。時代は変わっても、お正月という非日常をそれぞれの形で過ごし、新しい年を迎える期待や不安にドキドキするというのは今も昔もあまり変わらないでしょう。ましてや子供たちにとっては、三か月後の4月には、進級に伴うクラス替えや進学など、今とは違う環境の未来がすぐそこ待っていることは、否応なしに意識させられるものでしょう。**どんな年にしたいのか、どんな未来を創っていききたいのかを主体的に考えて行動していくこと**が令和の時代には求められています。夢や目標をもち、その実現に向けて努力を積み上げる武蔵野小の子ども達であってほしいと思います。

3学期は短く、3月の修業式・卒業式までの登校は、わずか50日（5・6年生は51日）です。学年のまとめをしっかりとし、来るべき次年度を自信をもって迎えられよう、教職員一同取り組んでまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

【1月の生活目標：すすんで仕事をしよう】

集団で社会生活を営む人にとって、仕事をする＝働くことは、生きるために協力することです。人のために自分のもてる力を発揮することで、私たちは人間としても社会としても進化してきました。誰かの働きは、必ず他の誰かの幸せにつながります。進んでみんなを幸せにできる人になりましょう。

